



有松小花火大会 開催される (7月29日)

昨年に続き今年も、有松小学校PTAによる花火大会が行われました。地域の人々にとっても楽しみだったようで、多くの方がグラウンドにやって来ました。

「お母さんもこの小学校に通っていたんだよ」親子の会話が聞こえてきます。午後7時半、[♡有松♡] 文字に点火で開始。その後5分強の花火打ち上げ。それ以上に長く感じられました。グラウンドの周りにはペンライトの灯り、歓声とともに花火を包み込んでいます。



緑区観光大使 有松でソロコンサート (8月5日)

7月に観光大使に就任された三味線奏者 山口晃司さんのソロコンサートが竹田家住宅3番蔵で開かれ、観客40人程を前に全14曲が披露されました。

午後の部を鑑賞させていただきましたが、曲の多くを午前と

コンサート風景

変えるなど意欲的な演奏会でした。テーマは「三味線日本一周」。

一曲ごとに軽妙なトーク付き。曲への理解を深めるとともに、観客へ手拍子や声出しを促してもいました。会の進行とともに奏者と観客が一体となり、山口さん自身も10年振りのソロコンサートを楽しんでいました。最後の"じょんがら節"では、世界最速の三味線奏者ぶりをいかんなく発揮。「この1曲で今日来てよかったと思えるようにしたい」との思いはかなえられたようです。



山口晃司(こうじ)さん

最後に"緑区ありがとう超連鎖"の写真を参加者全員で撮り、散会しました。

「有松音頭」をご存知でしょうか

資料提供:有松あないびとの会 山本文雄

野崎進吉作詞 中野二郎作曲 有松町・有松商工会・中部日本新聞社選定

8月11日夕方、約20年ぶりの有松学区での盆踊りが開催されました。盆踊りと言えば、年配の方にとって「有松音頭」は懐かしい曲の一つではないでしょうか。1番を紹介します。

ハァー 昇る朝日に 有松晴れて 松も懐かし 東海道の 九九利染めから
栄えて伸びて 今じゃ絞りで日本一 さあさ手拍子 足拍子 ソレ 絞姿で 踊りゃんせ

有松ゆかたまつり 開催 (8月11日) 会場:有松東海道一円/イオンタウン有松

猛暑で日中有松を訪れる人はまばらのようです。山与遊歩道では"たんころりん"(竹籠と和紙で作る円筒形の行灯)と"絞りタペストリー"でお出迎え。東海道では有松あないびとの会と文嶺講が忙しい。参加者は多くありませんが町並みツアー①、授与品の頒布②。涼しさ演出の打ち水③に、桜花学園や東陵中学校の皆さんが駆けつけていました。日差しを避け、軒下に置かれたベンチで休む親子連れが印象的でした④。



絞りタペストリー(左)とたんころりん



有松を訪れた人



東海道の様子



有松に来た方はどこにいるのだろうか。日差しを避け、お店の中に・・特に関連イベント会場には多くの人が押しかけていました。藍の葉で"たたき染め"うちわを作る体験①ではテーブル2か所に10数名の人が、また、ミニ"たんころりん"作り②では長い行列ができていました。隣では、夕方の盆踊りの練習会も行われていました。

3回目の今年のゆかたまつりの目玉、有松で約20年ぶりの盆踊りではないでしょうか。夕方5時過ぎ長嶋緑区長の挨拶を皮切りに、途中休憩を挟みながら8時まで行われました。会場のありまつ公園には時間を追うごとに人が集まり、また隣の校会館駐車場の縁日にも所狭しと人が集っていました。

盆踊りの様子 写真提供:有松あないびとの会 横井清明



長嶋緑区長



イオンタウン有松の様子



絞りまつりでの展示会紹介②

そうなる！？有松絞りの浴衣展

有松絞りは、絞り職人や絞り商たちによる創意工夫の積み重ねによって、今日まで400年以上も続いています。手工業ならではの軽やかな指さばきや丁寧な染め分けはムダが少なく、まるで初めて見る人には「そうなる！？」と驚きを持って受け取られるほどです。生活からものづくりが離れつつある現代において、原材料から製品に至るまでや熟練の手仕事を身近に感じる機会は限られているでしょう。

1 有松絞りの浴衣

伝統工芸「有松絞り」の浴衣は、主に木綿の生地に100種類以上ある絞りの技法と染色の組み合わせによって表現される美しい絞り柄が特徴です。

2 反物から仕立てへ

絞りの浴衣は、小幅と呼ばれる35～40cm程の生地を約14m使って仕立てられます。絞り染色の過程で縮んだ生地幅をスチームで優しく伸ばす「湯のし」を経て、着用者の身丈(浴衣の縦の長さ)・衿丈(肩と袖にあたる生地の長さ)に合わせてつくりま



現代的な絞り



伝統的な絞り



絵刷りされた反物/括られた反物/染められた反物

3 絞りの基本技法

右写真手前:「湯のし」された反物 ⇒

《縫う》 針と糸を使って布を縫い引き締めて防染する絞りの技法の総称、「縫い絞り」。下絵で描かれた線に沿うように平縫いしたり、布を折り曲げて摘みながら縫ったりするこの技法は、縫う間隔や針目のの大小で様々な絞り模様を描くことができます。

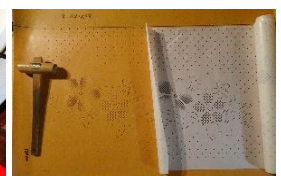
《括る》 括り糸を用いて布を括って防染する絞りの技法。三浦絞りのように粒が小さいと完成まで時間がかかりますが、大きな柄も同じように括り続けることも高い技術が求められます。手蜘蛛絞りのような絵刷りせず手の感覚だけで大きさを決める絞りもあります。

《畳む》 布を幾何学的に折り畳み、板などに挟み込んで防染する「板締め絞り」や「雪花絞り」などの技法です。

絞りの道具・機械 左写真は括り職人が使う「括り台」と台につける「括り針」。右写真は絵刷りで使う木槌・ポンチ・型紙。伊勢型紙に下絵を描き、技法に合わせてポンチで抜きます。



括り台と括り針



木槌・ポンチ・型紙

4 染色から糸抜き

染色は糸を染める「先染め」と生地や製品を染める「後染め」に主に分類され、反物を染める有松は後染め加工を行います。有松絞りでは染液に反物を入れる「浸染」や染液をかける「流し染め」を行い、友禅染めなど筆で染料を塗り染めるのとは異なる染色技法です。

明治時代ころまで藍染が中心でしたが、大正時代以降に輸入されたカラフルな化学染料に瞬く間に切り替わっていきました。流し染めを始めとした様々な染色技術が生み出されました。

(岡家住宅での展示パネルを要約させていただきました。)

有松には芸術がよく似合う

重要伝統的建造物群保存地区（平成28年7月選定）の有松には、趣のある江戸後期から明治時代の建物が数多く残されています。それらを会場にした展覧会やコンサートが、年間途切れることなく行われています。その一端を紹介しましょう。

藝探展 東陵中学校芸術文化探求部（8月19日）他に8/20～9/3の金・土・日

芸術文化探求部は、いわゆる美術部のような活動の他、自分が芸術だと思うものを探求する活動も行っています。身近にある有松の町の伝統文化にも関心を寄せて"有松活動"を行ってきました。その成果の作品や大切なものが展示されていました。生徒のご家族はじめ多くの方が会場を訪れていました。鑑賞する角度を変えると違って見える作品、不思議でした。

会場紹介：川村家東蔵

川村家は、竹田庄九郎家に20年間奉公後、文化5年(1808)に別家独立した。東海道沿いの主屋は平成17年(2005)に建て替えられたが、屋敷奥の土蔵や離れなどの建物群は残っている。

北面に正面入口を持つ土蔵は嘉永3年(1850)2月の棟札がある。1階は東西2つの蔵が通路空間を挟んだ形で、それぞれ東蔵と西蔵と呼ばれるが、2階で両者は繋がる。東蔵は間口3間奥行2間。

（「名古屋市長 有松 伝統的建造物群保存対策調査報告書」より）



サマーナイト JAZZライブ ナタリー成田・尾崎真希・福田義明（8月20日）

庭を背に奥座敷で行われた町家ライブは思いの外ジャズに合っていた。2間の会場は30名を越す人で一杯。参加者はテンポのいい曲展開に満足の表情を浮かべていました。



会場紹介：寿限無茶屋

当服部家は、井桁屋の分家の分家。建物は江戸期迄の井桁屋の大番頭石川重助氏が明治初期から昭和初期まで4代に渡り絞り間屋を営み築き上げた遺構で、絞り産業最盛期だった頃の面影が随所に残る。明治8年築の棟札が認められる。その後井桁一服部家の新屋となり麵どころとなる。

（店主 服部明治 ※コンサートチラシより）



催事・行事予定

- 9月3日(日) 13:00 「有松スタイル&ランス交流会 2023」 竹田家住宅 コンソーシウム有松
9月5日(火) 13:00 現役客室乗務員によるおもてなしセミナー 絞会館 有松日本遺産推進協議会
9月10日(日) 15:00 第12回寿限無茶屋で上方落語 九雀亭 寿限無茶屋
9月11日(月) 18:00 町並み相談会 有松コミセン
9月23日(土・祝) 14:00 有松町家ライブ 棚橋家住宅 同実行委員会
9月24日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会
9月25日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン
※9月18日～9月30日 山車会館は秋季大祭準備のため休館です。
10月1日(日) 9:30 有松天満社秋季大祭「山車まつり」 有松天満社文嶺講



サルスベリ

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)
編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

※ 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

